

第59回(2018)名大祭で平和憲章記念企画を開催！

名古屋大学平和憲章委員会は、第59回名大祭の2018年6月9日に教育学部棟2階大講義室で、上映会「この世界の片隅に」～被爆体験の語りとともに～を開催しました。

「この世界の片隅に」は、この史代が『漫画アクション』に2007年から2009年まで連載したコミックを片淵須直監督が2016年にアニメ化したものです。

本企画はアニメを3回観たメンバーの提案から始まり、同時に当時の話も聞こうと話弾み、沢田昭二さんから被爆体験を語っていただけることになりました。

沢田さんは1987年2月5日に制定された名古屋大学平和憲章の制定実行委員会の事務局で活躍され、2017年2月4日の平和憲章30周年記念企画でもリレートークに参加いただきました。

アニメ上映後、沢田さんから1945年

8月6日広島での被爆体験を伺いました。また、学生時代から原水爆禁止のためにとりくまれ、現在も被爆者認定訴訟をはじめ活躍されていることや、2017年7月7日に核兵器禁止条約が採択された意義について紹介がありました。

以下映画の内容が含まれています
*** 感想文から（原文ママ）***

質疑にもっと時間があればよかった。

「この世界の片隅に」をこの世界が大きく変わろうとしているタイミングで観て、とても嬉しいです。沢田さんの話をきかせていただいたことに対しても感謝しています。去年の夏に益川さんの話を同朋大の所できき、今日、沢田さんの話をきき、坂田さんという方のことも改めて知れました。今日は、ありがとうございました。

大学祭でこの映画をとりあげていただくのはすばらしい企画だと思いました。被

爆体験のある方のお話をお聴きできるのは貴重な機会です。とくに沢田先生は素粒子物理がご専門とのことで、広島・長崎の原爆の実相を詳しくうかがうことができました。ありがとうございました。尚、この映画をみたのは36回目ですが、久しぶりにみてまた感動を深くしてしまいました。

きれいな映画で、よかったですが、被爆後（すぐ）広島に入れるような描き方はどうかと思いました。沢田先生のお話、とても良かったです！！

原作は紙媒体だったが、映像化によってより戦争というものを強く追体験できたと思う。被爆体験のみならず核についての実験データをうかがうことができて興味深かった。

映画は非常に見ごたえがありました。色々と考えさせられました。



広島の自宅での被爆体験を講演する沢田昭二さん 正面スクリーン右 2018年6月9日。

「この世界の片隅に」は上映されている時に一度みて、今日が二度目でした。一度目にみた時より、心に染みました。市井の人々の普通の生活がどんなに貴重で素晴らしいことかを、改めて確認することができました。又、続けて、あまりにも強烈な、被爆体験をされた沢田先生のお話をきく事ができて、本当に良い貴重な体験ができました。日本人として広島、長崎に行きたいと思いつつ、まだ行っていませんが、今年、絶対行こうと思いました。

現在、アメリカや北朝鮮、中国やロシアなどきな臭い世界の趨勢だが、人類全員で平和な地球＝核兵器廃止を必ず達成しなければいけない。

被爆者でもある沢田先生の研究は、とても有効で有役だと思います。ノーベル平和賞はぜひ沢田先生に！！トランプ？ふざけるな！です。沢田先生長生きしてがんばって生きて、ノーベル賞とってください！！私たちも応援します！

子どもが名大附中で平和について学んでいます。研究旅行で広島について調べていますが、今日の経験から、寄りそって親子で話せます。

いかに今まで戦争が他人事だったか映画も話も語り継いでいかないと、平和を見失ってしまうように思えます。

核実験の被害について科学的な研究があまりなされていないとのことで驚きました。核をなくす、一度手に入れたものを手放すことは本当に難しいことだと思いますが、条約発効によりそれが現実になるかもしれない今日は希望を持ちました。

とても良かった！

被爆体験者の生の声をきけたのが良かった。

素晴らしい企画ありがとうございました。映画も素晴らしかったし、沢田先生は名大の誇りですね。名大平和憲章も、卒業生として誇りに思っています。

今日、ありがとうございました！いろいろ勉強になりました。

確かに、戦争の前に皆も被害者だと思います。だからこそ、平和は貴重なもの事で違いないのです。

話題の映画を上映頂きありがとうございました。日常が壊されていく様子をゆったりなじょうけいで描かれていましたが、じんわりとその恐ろしさが伝わりました。空襲って恐ろしいですね……。

沢田先生の話よかったです。体験と科学的な話わかりやすかった。→名大ならではですね。そして核兵器をなくすために今も尽力している姿に感動しました。

沢田先生の活動、ご講演が素晴らしいと思いました。沢田先生の科学的な講義を、もっと聞きたかったです。名古屋大学の自由と平和に根ざした学問の伝統を守っていかなければと思いました(今、守られているのでしょうか？)。

企画の開催お疲れ様でした。上映内容も良く、大変勉強になりました。沢田先生のお話も大変参考になりました。ありがとうございました。

〔映画〕

まず私は戦争体験者ではない(19歳)ので、映画を見ても感情に入ることではできませんでした。しかし主人公のすず、仮姉の子供、夫、仮母、さまざまな人達が"お国のために"というまやかしの元、苦しい時代を生きぬいていかなければならなかったという事実はひしひしと伝わってきました。

〔お話〕

軍事工場で無理矢理働かされたあげく(サボりが多少できたのは驚きでした)、母親を悲惨な状況で亡くして、もし自分がその立場であったとしたならば、どんな行動をとり、どんな人物になっていただろうか。こういった被爆体験談を聞くことは、忘れたい過去と向き合うかくが必要なこと、すごいことだと感じました。これからも、伝えていくべきで、生

きている限り企画・お話の場を続けていってください。私は今日お聞きしたお話を後世の誰かに伝えていきます。

戦争はとても大変なことだと分かった。一つの原子ばくだんで、広島市が焼け野原になってしまうので、とても怖いなと思いました。

(本当にくるしかったんだな～。)と思いました。火が来て大変だったんだな～と思いました。せんそうは、たいへんだったんだなあ～と思いました。

たんたん進むストーリーでしたが、全体的に私はいい映画だと思いました。空襲は、実際にあのような事だとわかり、こわく思いました。呉でも広島の前爆の影響は、どれぐらいあったのか？知りたくなりました。

広島の前爆が落ちた瞬間、ピカッと光った。それからしばらくして、爆風が来て、ガタガタと家が揺れて、カワラが飛んでいる様子、木の枝に障子がひっかかっていた。これは広島から呉まで飛んできたのかと思った。すずさん側の家族と嫁入り先の家族との組み合わせや、夢もからんで家族関係がわかりにくかった。呉の軍港への空襲の激しさにびっくり、リアルなアニメ表現だと思った。



会場の展示パネル 2018年6月9日。